

やらせメールの本質は？

ウソを重ねる九州電力

“やらせ”メールについて、県議会の特別委員会で「そんな事実はない」と発言した九州電力は、再度行った特別委員会でも、国への「報告書」でも、虚偽の発言を続けました。ところがそれ以前の株主総会では“やらせ”メールを認める「想定問答集」まで作っていた事実が明らかになりました。県議会と県民を愚弄する虚偽発言について九州電力に強く抗議しました。

不正な世論操作をしないと「安全だ」と説得できない

九州電力以外にも、中部電力、四国電力、東北電力、北海道電力管内の国主権のシンポジウムや住民説明会等において、原子力を規制すべき原子力安全・保安院が「やらせ」で賛成質問を要請していたことが明らかになりました。ここまでやらなければ「原発は安全だ」と住民を説得できない。つまり、原発がいかに危険なものを自ら証明したことになります。

自然・再生可能エネルギーの爆発的普及を

日本政府は、これまで原発増設を国策として推進するために、自然・再生可能エネルギーの普及を抑制してきました。政府の調査では、太陽光、風力、中小水力、地熱だけで、原発54基の40倍以上の資源量があるとされています。自然・再生可能エネルギーは地域に存在する「地産」エネルギーです。地元企業の技術力を活かし、新たな雇用を生み出す可能性も持っています。

政府に対し、危険な原発から撤退し、自然・再生可能エネルギーの爆発的普及を図ることを求めましょう。

馬毛島

馬毛島・米空母艦載機訓練 米軍のための 基地建設やめよ

日米両政府は6月21日に日米安全保障協議委員会を開催し、西之表市の馬毛島への米空母艦載機の離着陸訓練基地建設を日米合意として盛り込みました。

地元自治体では数年前から反対の意思を明確に表明しており、住民無視の暴挙です。



●防衛省に 日米共同文書に明記された 馬毛島の削除を要請

7月7日、まつざき真琴県議、野口寛西之表市議らは、防衛省に対して共同文書からの削除を要請しました。赤嶺政賢衆院議員、仁比総平前参院議員、田村貴昭九州・沖縄ブロック事務所長が同席しました。(左写真)

騒音被害は？

防衛省は、地元へは、騒音は70デシベル以下で新幹線の車内の音の程度であり、飛行経路も、決して種子島の上空は飛ばない(図1)と説明しています。しかしながら、防衛省の説明資料の図は、今馬毛島でつくられている滑走路や種子島空港の滑走路の方向とは違っており、現地の風向きを考えると、飛行経路は図2のようになります。戦闘機が種子島の上空を飛ぶことは明らかです。

●種子島の上空を戦闘機が飛ぶことが明らかに…。

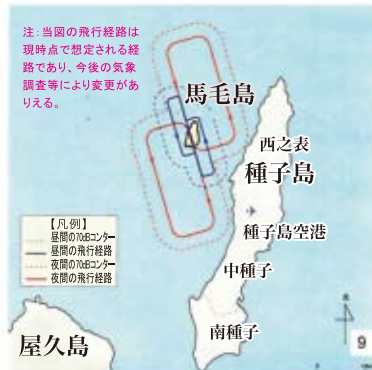


図1(防衛省資料より)

種子島空港の滑走路と同じ方向で 訓練(NLP)した場合の飛行経路

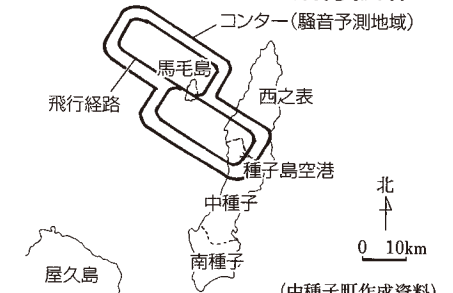


図2(中種子町役場より)

静かで自然豊かな故郷を守ろう!

今地元では種子島でも屋久島でも島ぐるみの反対運動が広がっています。基地交付金に頼ったまちづくりではなく、農業、漁業を大事にした真の地域振興をすべきと、きっぱりと基地反対の意思を表明しています。

力を合わせて、馬毛島への基地建設を跳ね返しましょう。

●屋久島、種子島の一市三町を訪問し懇談、激励



7月21~22日、まつざき真琴県議は、屋久島、種子島の一市三町を訪問し懇談、激励をおこないました。

右写真は住民との懇談。

左写真は、西之表市長、議長との懇談のようす。

9月議会のお知らせ

傍聴においでください

まつざき真琴の一般質問

9月22日(木)10時から

原発問題や災害に強いまちづくりなど。常任委員会は、産業経済委員会です。

ご意見・ご要望をお寄せください。

ぜひご参加ください!

原発ゼロをめざす県民集会

9月23日(金・祝) 15:00~

鹿児島市みなと大通り公園(海岸側)

終わってから、パレードをします。プラカードなどを持ち寄りましょう

